

2016/8/15-8/21

# デボーションガイド 「ユースマナ」

## 詩篇 27:4

私は一つのことを主に願った。  
私はそれを求めている。私のいのちの日の限り、主の家に住むことを。主の麗しさを仰ぎ見、その宮で、思いにふける、そのために。

2016/8/15(月)

### 使徒 23:12-22

自分を殺そうとしている人たちがいる状況というのは、どれだけ恐ろしいことでしょうか。聖書の中には、そういう命の危険に晒された人たちが多く登場します。預言者エリヤはイゼベルに命を狙われていることを知って恐ろしくなり荒野に逃げました。彼は自分の死を願うほど弱りましたが、神様は彼を優しく励まし、彼を助けました。  
ダビデもまたサウル王から命を狙われ、逃亡生活をしましたが、幾度も神様はダビデを死の罠から逃れさせました。  
神様は私たちの祈りを聞き、私たちを必ず助けてくださる方です。私たちは神様にどれだけ信頼を置いているのでしょうか？  
自分が困った状況、つらい時に、一番に頼る相手は誰ですか？神様に本気で頼ることを学ぼう！

2016/8/16(火)

### 使徒 23:23-35

暗殺計画を知った千人隊長は、パウロをカイザリヤに送る手はずを整えた。そのためには、ユダヤ州の総督に説明の文書を送ったり、様々な流れがあった。当事者であるパウロは事態がどのように進んでいるのかわからなかったけど、主はいつも言い送った通りに計画を進めるお方であるということを知っていた。  
主のご計画は人の想像を超えて、様々な人間の状況を呑み込みながら前進していく！主の御手にゆだねて信仰をもって物事を受け入れる人は、すべてを支配しておられる神様のもとで、平安をもって歩むことができるんだね！今日も神様の平安のもので1日過ごせるように祈ろう！

2016/8/17(水)

### 使徒 24:1-9

パウロを何としても亡き者にしようとする大祭司アナニヤと長老たちは、テルトロという弁護士を連れて、総督ペリクスのもとへパウロを告訴するためにやってきた。告訴の内容は、パウロがローマに関する法に反する人物であることを印象づけるように組み立てられていた。そして、自分たちの訴えの真偽は総督自身が調べていただくことによってわかるとし、その訴えの責任を、総督に負わせようとした。公正であるべき裁判の席で、大祭司たちは、なんとしてもパウロを有罪にしたいという自分たちの動機を隠して、偽りと欺きをもってパウロを訴える行為によって神を冒瀆していたのである。  
神様は、偽りと欺きを最もお嫌いになる。今日、私たちを愛してください 守ってください 主をもっと知り、その愛のお方だけを畏れることの幸いを知ることができますように！

2016/8/18(木)

### 使徒 24:10-27

「福音を生きる」  
■ローマ帝国の首都であるカイザリヤでのパウロの弁明に関する箇所です。パウロは様々な場面で福音を語りました。弁明と呼ばれるこの箇所にも、パウロが何を信じているのかを大胆に語る姿が見られます。  
■ペリクスとその妻ドルシラはパウロから福音について話を聞きました。その内容は、キリスト・イエスを信じる信仰についてであり、正義と節制とやがて来る審判についてでした。彼らの心には、恐れがあり、下心がありました。  
■私たちはどれだけ福音を自分の物語として表しているのでしょうか。言葉で伝えることはもちろん、行動や、一つ一つの選びについても同じことが言えます。  
■私たちは聖霊に突き動かされて福音を生きる者です。相手の心の状態は主が語ってくださいます。私たちは自分で判断するのではなく、主によって判断し、福音を生きましょう。

2016/8/19(金)

### 使徒 25:1-12

ここではまず捕まっているパウロがローマに送られる事が決まっていた。  
そこでユダヤ人の指導者たちがフェストという総督に、パウロの裁判をエルサレムでやってくれと頼んだ。ユダヤ人の指導者たちはパウロをその道中で殺そうとしていたからなんだ。  
それを知らないフェストだったけど、エルサレムでやる事を許さなかった。ここでは神様が何も知らないフェストの判断を用いてパウロを守ったんだ！  
神様は人を使わし、用いて力を表す方です。神様の働きを見逃さず感謝していこう！  
裁判でユダヤ人たちが色々な罪状をパウロに訴えたけれども、パウロは罪を犯していないという事をハッキリと自分自信で答えた。周りの状況が悪くても神様に守られ、強められている1日過ごせるように祈ろう！！

2016/8/20(土)

### 使徒 25:13-27

パウロがカイザルに上訴した数日後、アグリッパ二世がフェストのところを訪ねた。フェストは其中でパウロの件を話し、イエスが生きていと主張することを問題の中心として相談した。パウロが裁判で繰り返し語ってきたことで、福音の中心が受け入れられなくても、フェストにはっきりと示されていたことが分かるね。  
その後もパウロはまたほかの人たちに引き渡されていくが、それは同時に権力をもった人たちに福音を伝えるチャンスにもなった。  
それはパウロがイエス様と一緒に歩み、証をし続けたからだ。どこにいても神様と歩み、その恵みを語っていこう！

2016/8/21(日)

### 使徒 26:1-18

パウロは元々イエス様が復活したキリストだと語る者たちに反対し、彼らを根絶やしにするため迫害しながらダマスコまで追跡していた。しかし、ダマスコに向かう途上でのイエス様との出会いによってパウロは回心し全く変えられた。それはこれから後、パウロがこのお方の宣教者、証人として任命されユダヤ人をはじめ異邦人の使徒として遣わされるためであった。  
イエス様の福音に曖昧さはありません。永遠の滅びか、永遠のいのちかだけです。クリスチャンは、この福音を宣べ伝えるために世に遣わされた者です。クリスチャンとして確信を持ちましょう。

